

親の会



香川県立香川東部養護学校 手をつなぐ親の会 広報部

令和元年 12月発行

【施設見学会Ⅱ】



9月26日（木）に行われました施設見学会について、研修部からお知らせします。

見学施設：竜雲学園（高松市仏生山町） 竜雲少年農場（綾川町）

参加者：武田校長先生、進路指導主事 中川先生、高等部 木村先生、保護者 18名

竜雲あけぼの学園

就労移行支援・生活介護・施設入所支援

うどん打ちの作業では、おもに20代、30代の就労移行支援の利用者さんと生活介護の利用者さんが一緒に作業されていたのが印象的でした。うどんの梱包作業では、慣れた手つきで梱包作業をされていました。生活介護では創作活動も行っており、平成30年度からは芸術祭への参加も行って、作業されている部屋にも季節を感じる素敵な作品が飾られていました。30代と60代では体力も違い機能低下もあるので、作業内容を考え竜雲学園内の別の施設へ変わることもあるそうです。



ぼだいじゅ

就労継続支援A型・生活介護

生活介護の部屋では、おひとりおひとりのペースに合わせて、ゆったりとした時間を過ごされていました。多くの見学者に戸惑っている様子の方もいて、支援者の手を握っておられました。信頼できる支援者の存在は、安心して過ごすためにも大切だと感じました。就労継続支援A型の「本格手打ちうどん竜雲」で、昼食の天ざるうどんをおいしくいただきました。普段、なかなか、お話する機会のない、違う学年の保護者の皆様と話もできて、とても楽しいランチタイムになりました。



竜雲かしのき園

就労継続支援B型

見学へうかがった日は、屋根のある場所で、おもにポット苗の作業をされていました。・ポットへ土を入れる ・種を入れる ・ケースにポットをセットする ・セットできたケースを運ぶ等、個々の特性や能力に応じて分業されていました。あたらしく立派なビニールハウスも建っていて、今後、活用されるとのことでした。



グループホーム竜雲

共同生活援助

「相談支援センター竜雲」と併設されているグループホーム【フリージア】を見学させていただきました。ここから、自転車や電車を利用して職場に通っているそうで、2～5年の間での1人暮らしを目指してサポートしているそうです。

1人暮らしをするためには、保証人になってもらう親族、家主、勤務先の理解等課題もあるそうです。GHは事業所によって考え方もそれぞれちがひ、暮らし方も様々あることを、今のうちから、ほんの少し意識をもっておきたいです。



竜雲少年農場

生活介護・施設入所支援・短期入所・日中一時支援

高松市内からはなれ、山道をだいぶ登った所へ、竜雲少年農場の看板が見えてきました。ご本人にとって過ごしやすい環境を考えるなかで、牛の中でも小柄でおだやかな性格のジャージー牛と知的障がいのある方とふれあう機会をもったところ、とても相性が良く、この場所へ広大な面積の牧山と施設をつくったそうです。

- ・地元の行事へ参加したり、近隣の小中学校から一回30人程度の実習を受け入れたりして、長年、交流を深め、障がいに対する理解を広めてきたことで、地元の方が竜雲少年農場に就職してくれたこと
- ・利用者の方の高齢化で、きざみ食やミキサー食が必要になってきたので、お店に交渉し開拓していること
- ・高齢なのに少年農場というのは、いつまでも少年の心を持っているから 等々

支援者の熱い思いが話の端々から伝わってきました。



パンフレットは、図書室のPTA・親の会資料コーナーにて閲覧いただけます。

詳細は社会福祉法人 竜雲学園のホームページ <http://www.ryuungakuen.or.jp> をご覧ください。

(高3 大川)



10月19日～20日に岡山市で開催された育成会中国・四国大会に参加しました。
誰もが共に輝き、安心して暮らせる共生社会の実現を目指して！～地域の関係機関・団体、そして地域の人々と繋がって～を大会スローガンとして分科会・全体会等がありました。
その中から参加した分科会について報告します。

第1分科会（学童期・青年期）

「子育て中の家族を支援する」



私は今回、川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科 重松孝治先生による「思春期における支援」の話を聞いてきました。とても分かりやすく楽しく話してくださり、本当に皆さんにも聞いて欲しかったと思いました。

養護学校の教員の経験もあり、いろいろな体験談から思春期の子どもに対する支援をどうしていったらいいのか、という話をしてくださいました。

思春期は、身体の変化に伴って心の変化をしていきます。抱きつくのが好きな子が思春期になり「もう大きくなったんだからダメ！」と急に言われると戸惑ってしまいますよね。このように周囲の反応が変わることに自分が気づけず戸惑ってしまい、生活の幅が減ってしまうことになるので、幼少期から抱きつかないように教えていかななくてははいけません。イライラして噛みついてしまう時、大きい声を出したい時、ダメではなく噛みついてもいいものや、大きい声を出してもいい場所の提供をしてあげるといいそうです。もちろん、それで落ち着くようになるには繰り返し練習も必要になってきますし、先生と家庭の連携も大切だとおっしゃっていました。忙しい日常生活の中で「ダメ」はついつい使ってしまいます。「この子にはどういう接し方、声かけをしたらいいのか。何かできることはないかな。」少しゆっくり考える時間を時々作ろうと思いました。

（親の会副会長 高1 荒紀子）

第2分科会（成人期）

「自立的な地域生活・働く生活を支える」

- コーディネーター：全国手をつなぐ育成会連合会 事業所協議会 運営委員長

「時代は共生社会へ 一歩一歩、前へ」

東京都三鷹の社会福祉法人の就労継続B型・生活介護・多機能・相談支援・放課後等ディサービスの事業、NPO法人のグループホームや一時保護事業、新制度施行から13年として障害福祉を取り巻く環境の変化について

- 提案者：岡山県立の支援学校進路指導主事

就職してからの事例紹介、進路選択の際に考慮するポイント、就労定着に向けて

- 提案者：高知県の就業・生活支援センター生活支援員

＜就労実現に向けた取り組み（自転車練習）、サテライトから一人暮らし（食事・通帳管理・住居賃貸契約）、余暇活動（同事業所での旅行・スポーツ同好会）について＞

多様な生活の場、働き方、就労支援についてお話があり、卒業後、地域で生活するにあたり、子供たちの支援を、事業所と自治体等の関係機関と連携して行っていくために、保護者はどういった点に気を付けたいのかを考えるきっかけになりました。

何よりも基本的な生活習慣を身につける（これが一番難しいです・・・）そして日中活動と生活の場の両方をバランスよく整えることの大切さを感じました。

全体会（中央情勢報告、講演「障害福祉施策の現状と課題～地域共生社会の実現に向けて～」、分科会、本人活動「すまいる大会」の内容を含む本大会の冊子がありますので、ご覧になりたい方はお申し出ください。



（親の会会長 高2 鎌倉知子）

<日用品バザー会計報告>



11月24日(日)若竹祭にて日用品バザーを行いました。
たくさんの方々に来ていただき、
たくさんの収益をあげることができました。
物品のご提供、お手伝い等、ご協力ありがとうございました。



2年前の40周年記念若竹祭で好評だった?先生・保護者が仮装をして校内を回り、子ども達にシールを配るイベントを行いました。今回も、かわいい・カッコイイ・怪しい?仮装で、来場者を楽しませてくれました。
ご協力いただいた先生・保護者の皆様、ありがとうございました。